

北海道立北方民族博物館第29回特別展

船、橈そり スキー、 かんじき

BOATS, SLEDS, SKIS, SNOWSHOES:
TRANSPORTATION DEVICES OF NORTHERN PEOPLES



かんじき / 北海道アイヌ
国立民族学博物館所蔵



スキー / アリュート
国立民族学博物館所蔵

photo: ロシア・マガダン州 / 呉人恵撮影



かんじき / 北アメリカ
国立民族学博物館所蔵

北方の移動手段と道具

2014.7.12〔土〕-10.5〔日〕

開館時間 9:00-17:00 (10月 9:30-16:30)

特別展のみ 一般 450 (300) 円 65 歳以上 300 円 高校・大学生 200 (160) 円
常設展+特別展 一般 800 (740) 円 65 歳以上 300 円 高校・大学生 320 (320) 円
※小中学生、学校行事の高校生は無料です。()内は 10 名以上の団体料金。



白樺樹皮製カヌー / アサバスカ
北海道立北方民族博物館所蔵



photo: アメリカ・アラスカ州 ポイント・バロー / 岸上伸啓撮影

バイダルカ / アルティーク
市立函館博物館所蔵

7/26 から
追加展示

世界にのこるのびざくわすか!

主催 北海道立北方民族博物館
協力 国立民族学博物館 市立函館博物館
函館市北方民族資料館 岸上伸啓氏
呉人恵氏 佐々木史郎氏 新谷暁生氏



北海道立北方民族博物館
Hokkaido Museum of Northern Peoples

〒093-0042 北海道網走市字潮見 309-1
(天都山・道立オホーツク公園内)
電話 0152-45-3888 FAX 0152-45-3889
指定管理者 一般財団法人北方文化振興協会
<http://hoppohm.org>



photo ロシア・ハバロフスク地方ノ
佐々木史郎撮影

船、橇、スキー、かんじきー北方の移動手段と道具

BOATS, SLEDS, SKIS, SNOWSHOES : TRANSPORTATION DEVICES OF NORTHERN PEOPLES

北方の自然環境と移動手段

北方諸民族は海や川、湖、森林やツンドラなど、さまざまな自然環境のなかで狩猟、漁労、採集の技術を駆使して生活してきた。水辺の環境では移動や物資運搬のための船が重要な移動手段であり、氷結・積雪期の移動には橇やスキー、かんじきが重要な役割をはたしてきた。

北方の船と橇

船を造る材料は環境条件という制約のなかで選択されてきた。樹木が十分に生育する地域では大きな木材を削り抜いた丸木船が建造され、極北・亜極北地域のような樹木の生育に適さない地域では、流木で作る木枠にセイウチやアザラシの皮を張ったカヤックやウミアックなどの皮船が発達した。また、北方針葉樹林帯ではシラカバ類の樹皮をつなぎ合わせた白樺樹皮製のカヌーが造られてきた。とくに北アメリカ各地では現代のカヌーの原型となるさまざまな形状の白樺樹皮製カヌーが造られ、狩猟や漁労、あるいは内陸の交易にも利用してきた。アジア側にも白樺樹皮製カヌーが知られていて、シベリアのエニセイ川、レナ川流域のエベンキヤサハ（ヤクート）、さらにアムール川流域のナーナイなどが白樺樹皮製カヌーを利用してきた。

雪上における移動・運搬手段としては橇が利用されてきた。橇を牽引する動物としてイヌは代表的な家畜であるが、狩猟採集民の経済のなかでは、ヒトと同じ量の魚や肉を消費する橇イヌの飼育頭数に限界があったとされている。

いっぽう、ユーラシア極北地域のトナカイ遊牧民はもっぱらトナカイを橇の牽引獣として利用してきた。トナカイが橇を牽引する力はイヌに比べてはるかに強く、雪が融けた後でも湿地状のツンドラ帯ではトナカイ橇を利用することが可能である。トナカイ遊牧民は次の放牧地へ移動する際は、多くの橇を連ねて大量の物資を運ぶことができる。

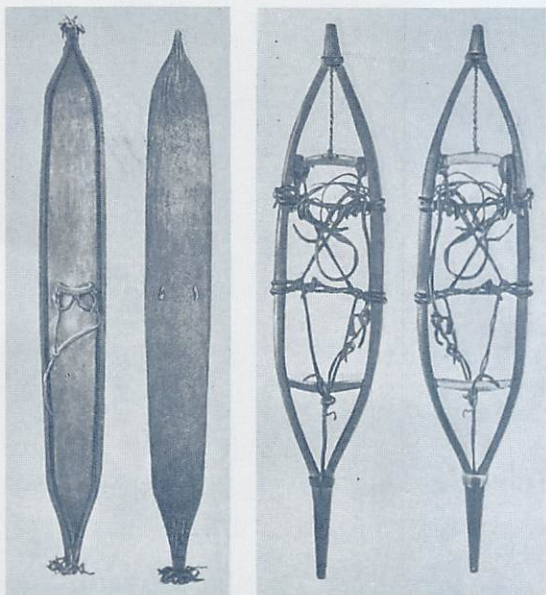


図1 イテリメンのスキー (Levin and Potapov 1961 Atlas Sibiri より)
図2 コリヤークのかんじき

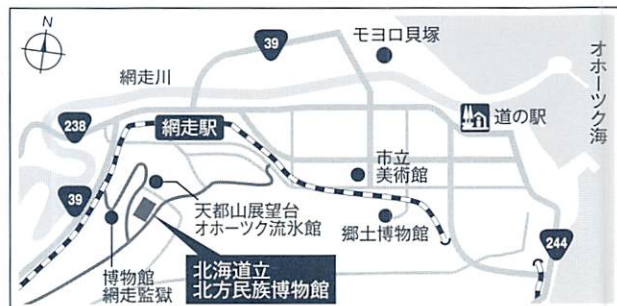
スキーとかんじき

積雪期における狩猟や漁労のための雪上歩行具としてスキーとかんじきがある。スキーはスカンディナヴィアのサミおよびシベリアからロシア極東北部にいたるシベリア諸民族の間で積雪期の狩猟用具として一般的である。大部分の地域では滑走面に毛皮を貼り付けて斜面を上る際の滑り止め機能をもたせたスキーが使われてきた。サミのスキーの多くは 270 cm前後と長く、毛皮を貼らない滑走用であるが、アザラシ毛皮を貼った短いスキーと長い滑走用スキーを組合せたものがある。短いスキーで雪面を蹴って、長い滑走用スキーで滑る。これを繰り返すという。長楕円形から円形の木枠の間に皮ひもを網目状に張ったかんじきは北アメリカ北部に多くみられる。ベーリング海峡を隔てたユーラシア東端域のチュコトカおよびカムチャツカには北アメリカ型のかんじきとシベリア型のスキーが混在するが(図1 イテリメンのスキー)、千島アイヌのかんじきはコリヤークの様式(図2)に酷似している。



<特別展関連事業>

- ◆ 講演会「皮船とイヌ橇の謎」
7月12日(土) 10:30-12:00 講師: 渡部 裕 (当館学芸員)
- ◆ イベント「バイダルカ試乗体験」 7月21日(月・海の日)
- ◆ 講座「黒田清隆一行収集の市立函館博物館所蔵三人乗カヤック・バイダルカについて」
8月2日(土) 13:30-15:00
講師: 長谷部 一弘氏 (函館市北方民族資料館 学芸員)
- ◆ はくぶつかんクラブ「ミニチュアそり作り」
8月23日(土) 10:00-12:00 講師: 中田 篤 (当館主任学芸員)
- ◆ 講座「北方海域と船ー探検と冒険の物語ー」
8月30日(土) 13:30-15:00 講師: 新谷 暁生氏 (冒険家・シーカヤックガイド)



〒093-0042 北海道網走市字潮見 309-1
(天都山・道立オホーツク公園内)
電話 0152-45-3888 FAX 0152-45-3889
指定管理者 一般財団法人北方文化振興協会
<http://hoppohm.org>